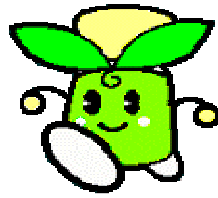


菫 桜 (わかざくら)

～南中校長室より～

平成 29 年度 NO. 3

平成 29 年 6 月 1 日



Be Proud Of Us

一部昨年度と記事が重なることをご承知ください。

6 月は「水無月」とも言います。「梅雨で天の水がなくなる月」という解釈もあるようです。1、2 年は校外学習（1 年生は淡輪海洋センター、2 年生は神戸市班別行動）、3 年は修学旅行（沖縄平和学習、文化学習と体験学習）と大きな行事を終えました。子どもたち同志、子どもと教師の「心の絆」が深まる行事になったと思います。「梅雨」に負けないように、気持ちはいつも「快晴」で、充実した日々を過ごしていきたいものです。

「いじめを考える月間」(6 月) 「いじめ」は犯罪行為です

- 1 「いじめ」は絶対に許されない、人として恥ずかしい行為であること。
- 2 「遊び」「ちょっとぐらい」の気持ちでやった行為が、取り返しのつかない大きな事故、事件につながる。いじめられたと被害者が感じればそれは「いじめ」である。
- 3 もし、いじめられている人がいれば、必ず、親や教師に相談すること。
- 4 まわりにいじめられている人がいたら、必ず、親や教師に伝えること。(いじめられている人だけではなく、情報をくれた人も必ず守り通す。)
- 5 社会で許されない行為は学校でも許されない。場合によっては、暴行罪、強要罪等、社会的責任を負わなければならない。

*6 月 14 日(水)～ ふれあいタイム(担任と生徒の懇談) を実施します。

「噂話」⇒「悪口」「陰口」⇒「いじめ」

悪口や陰口を本人の目の前で言う人は、あまりいません。嫌われたり恨まれたりされることは避けたいでしょうから。悪口や陰口を言いたいと思っている人は、共感してくれる人を欲して「噂話」をします。「あの人ここが嫌い」「こんなひどい人だ」という話をして「そうだそうだ」と同調してくれる仲間を作りたいのです。一緒に盛り上がりたいたいと思っています。これが「いじめ」につながります。悪口や陰口を言う人は心の中にある不平不満を口にします。ある心理学者によると、悪口や陰口を言う人は、周りの人からの信頼を失い、結局、本人がさびしい思いをする傾向にあるそうです。自分の人生を豊かにし健全な心でいたいなら、悪口を言うべきではないと思います。が・・・人間とはさびしい性の持ち主です。

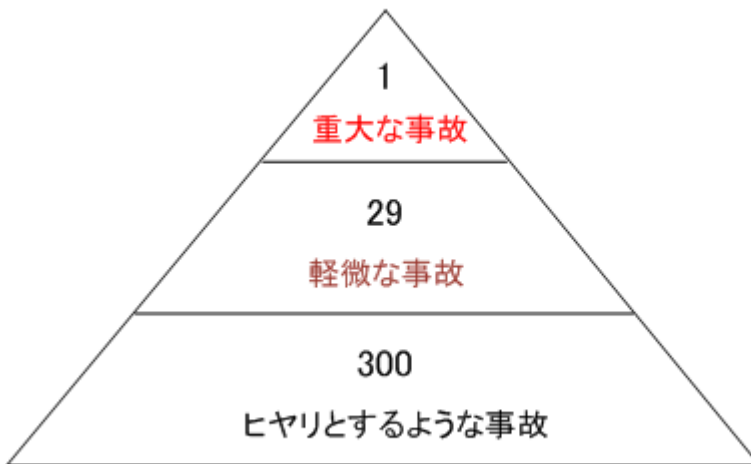
せめて、以下のことは心したいと思います。①噂話には誤解があったり、正確な情報でないことが多くあると心得ること。②噂話には尾ひれが必ず付いていると心得ること。③「人のいいこと」は噂話にはならず、ほぼ、「悪口」であると心得ること。④極力、自分の目で見て、心で感じ、確認するという作業をすること。

「靴箱にパンの食べ残しが入れられる」「靴が片方無くなる」「トイレの排水溝がふさがれ水があふれる」「ガムの食べかすが壁に擦り付けられる」という事象が立て続けに起こり、臨時の集会を持ちました。「おもしろいから・・・」「冗談で・・・」。「いじり」が「いじめ」になっていく経過と同じです。

ハインリッヒの法則

この法則は、労働災害における経験則の1つであり、1つの重大事故の背景には、29の軽微な事故があり、その背景には300の異常が存在するという法則です。

ハインリッヒの法則



<http://www.infraexpert.com/info/network7.html>

ハインリッヒの法則は、とても実践的な法則と言えます。この法則から導き出せる教訓として、重大な事故（生徒指導上の問題）というものは、軽微な事故（生徒指導上の問題）を防いでいけば発生しないものであり、軽微な事故（生徒指導上の問題）はヒヤリとするような事故（生徒指導上の問題）を防いでいけば発生しないものであるということです。

中間テスト終了（5月30日、31日）

～結果をしっかり受けとめ、次へのステップに～

一年生、初めての定期テスト。当日は、「開始」で一斉に鉛筆が動く音、文字を消す音が聞こえ、テストに緊張して取り組んでいるのがわかりました。「結果より過程」が大切なことは言うまでもありませんが、次は結果をしっかり受けとめ、「自分の間違いはどこにあったのか」を把握して次に活かすことが重要です。2・3年生も同じですが、点数にだけこだわって、「やりっぱなし」「受けっぱなし」にならないよう反省と次期テストの対策を。また評価はテストだけではありません。提出物は必ず出すこと、そして、日々の学習に集中する姿勢と態度を充実させることも大切です。

岸田カウンセラー 2日（金） 9日（金） 16日（金） 23日（金） 30日（金）
川端カウンセラー 6日（火） 20日（火）

ピンチャン（ピンチはチャンス）精神で・・・

現実にしてしまったことを「なかったことにする」のは不可能です。いくらくよくよしたところで、失敗したという過去の事実を塗りかえることはできません。でも、良い方向に転じることは可能です。失敗をチャンスと捉えて、前進する姿勢こそが、また新たなチャンスを生むのです。

どんな最悪だと思われる出来事も「ピンチャン」精神でプラスに転換することができますし、脳もその方向で考え始めます。「窮地に陥った時、これは何のチャンスだろう」と言葉に出して言うことで、脳の中では、何のチャンスだろうか？と自動で考え始めます。これは、意思には

関係ありません。どうしても考え始めてしまいます。そして、ちょっとずつ浮かび始めるわけです。

例えば、

◦先生からしかられた → 「ピンチャン 何のチャンスだろう」・・自分のことを心配してくれているんだ。そうでないとしかないもの。

◦苦手な友達と同じ班になった → 「ピンチャン 何のチャンスだろう」・・・社会に出たらいろんな人と付き合っていかなければならない。その時の訓練。

◦入試の失敗 → 「ピンチャン 何のチャンスだろう」・・・自分とは縁がなかったということ。他に、自分に合った、楽しく通える学校がある。

◦テストで悪い点数 → 「ピンチャン 何のチャンスだろう」・・・勉強法がまちがっていたと判った。工夫してみよう。

などです。昔から言いますが、長所と短所は裏表の関係にあります。見方が違うので、ある人には優柔不断にみえたり、他の人には慎重にみえたりするわけです。出来事も同じで、考え方次第で、良くも悪くもなりますから、どうせなら、良い面をしっかりとみたほうが人生にとってプラスになるわけです。

具体的な言葉を示します。

◦甘えん坊な・・・・人に可愛がられる

◦あきらめが悪い・・・一途な。

◦いいかげんな・・・・こだわらない、おおらか

◦いばる・・・・・自信がある、心豊か

◦うるさい・・・・・元気がいい

◦おしゃべりな・・・・話し好き

◦おとなしい・・・・おだやか

◦かたくなるしい・・・・意思が強い

◦カッとしやすい・・・・考えがはっきりしている

◦がんこな・・・・・情熱的、責任感がある

◦気が強い・・・・・情熱的

◦きびしい・・・・・自信がある

う

◦口が悪い・・・・・うそをつけない

◦口下手・・・・・自分の世界がある

◦けじめがない・・・・細かいことに気を使わない

◦計画性のない・・・・天真爛漫

◦興奮しやすい・・・・情熱的な

◦ことわれない・・・・やさしい

◦しつこい・・・・粘り強い

◦自慢する・・・・自分の意見がある

◦消極的な・・・・慎重

◦せっかちな・・・・頭の回転が速い

◦外面がいい・・・・人当りに気を使ってる

◦だらしない・・・・物事に執着しない

る

◦あきっぽい・・・・好奇心が旺盛

◦わがまま・・・・自分の意見がある

◦意見が言えない・・・争いがきらい

◦浮き沈みが激しい・・・明るい、活発

◦おこりっぽい・・・素直、情熱的

◦おっとりした・・・話をよく聞く

◦面白みがない・・・まじめ

◦勝ち気な・・・・信念がある

◦変わっている・・・個性的

◦気が弱い・・・・感受性が高い

◦きつい感じの・・・責任感がある

◦口がきつい・・・・はっきりものを言う

◦口が軽い・・・・社交的

◦暗い感じの・・・・物事に集中できる

◦けちな・・・・無駄遣いしない

◦強引な・・・・自信がある

◦こだわりやすい・・・自分を持ってる

◦さわがしい・・・・自分発信力が高い

◦自分がない・・・・譲り合う

◦地味な・・・・素朴、ひかえめ

◦ずうずうしい・・・押し出しが強い

◦責任感がない・・・人を信じられる

◦だまされやすい・・・人を信じる

◦短気な・・・・常に改善策を考えて

先日のアンケートで「自分にはよいところが無い」と答えた人。本当にそうでしょ

うか？